

ドンコイ通りの入り口から西南方向にルロイ大通りを 600m位の所にペンタン市場がある。ここはもう庶民の街であり、市民の生活の場でもある。スーパーがまだ普及していないここでは日用品や食料品を求めるのは市場なのだろう。市場の建屋はコンクリート製の平屋造り、入り口が各所にあって、入ると商店がぎっしりと並び、それぞれの商品が山積みになっている。日用品、食料品なら何でも揃っている感じだ。中に入ると品物によって各コーナーに整理されている。それによって近い入り口が違っている。私の入った入り口は日用雑貨品の売り場であった。



所狭しに商品が並べられて客が物色し、値段交渉をしている。ホールの中は薄暗く、各店舗の照明が頼りだ。ガイドからはくれぐれも買わない様に注意されている。値段の札がついていない。品物の目利きが良く、値段交渉が出来ないところでは難しい。



乾物のコーナーがある。干した果物や小魚や穀類と種類は豊富だ。全て秤売りである。



果物売り場には結構珍しい物や高級品も並んでいた。東南アジアの人達はフルーツを好んで食べている。

匂いのある鮮魚や鮮やかな色をした花の売り場と果物類は市場の外の外壁に沿って売り場がある。



市場の裏側に鮮魚売り場がある。たらいに入っている魚介類が客の要望でさばいて売られている。水を使うので市場の建物の外にある。果物や生花も場外の道路側に店構えをしている。数軒の花屋が軒を並べていて華やかだ。ガイドに聞くと、ベトナムの人は花好きで行事の際に飾る、レンタルの花屋も繁盛しているらしい。



写真左は市場内にあるフードコーナーで、右が市場横にある道路である。写真の左は商店街になっていて、奥の方には集合住宅がある。次から次と人の出入れがあって、熱気に溢れている。

まだコールドチェーンは発達していない。その日の食材を市場で求めてくるのが日常の生活になっている。市場に買いに来る人も市場で売る人も皆顔馴染みなのだ。中では情報交換や値段交渉がされていてそうぞうしいが活気があって親しめる。なかなかその中に溶け込むことは出来ないが、どんなものが売られているのを見るのは楽しい。市場がその国の現状を知るバロメーターといえる。

見学したペンタン市場は官庁街に近く最も大きいそう。地図を見ると各区に必ず市場がある。まだ市場が日常生活の基盤になっていることがそこからも解る。